



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/13 (月)	+ 300	▲ 20,300	▲ 20,000	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 社債等買入	1,100 ▲200	
7/14 (火)	+ 500	▲ 7,000	▲ 6,500	源泉所得税揚げ			日: 鉱工業生産 (5月) 米: CPI (6月)
7/15 (水)	トン	▲ 10,000	▲ 10,000	国債発行 (20年) 国債発行償還 (個人)			日: 日銀金融政策決定会合の議事録 (2016年1月-6月分) 米: ベージュブック : PPI (6月) 欧: ユーロ圏鉱工業生産 (5月)
7/16 (木)	トン	+ 1,000	+ 1,000				米: 小売売上高 (6月)
7/17 (金)	▲ 500	▲ 7,000	▲ 7,500	流動性供給			米: 鉱工業生産 (6月) 欧: ユーロ圏CPI (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆7,600億円増加の434兆4,500億円から始まった。その後、国債発行等の要因により増減し、10日は434兆7,600億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.977%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.970%~1.110%のレンジ、1M~3M物1.050%~1.260%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では14日に鉱工業生産 (5月)、15日に日銀金融政策決定会合の議事録 (2016年1月-6月分) の公表、海外では14日に米CPI (6月)、15日にベージュブック、米PPI (6月)、17日にユーロ圏CPI (6月) の公表などがある。

【無担保コールレート】

	予想レンジ (%)
O/N	0.950 ~ 0.978
1M	1.05 ~ 1.10
2M	1.10 ~ 1.15
3M	1.15 ~ 1.25
6M	1.30 ~ 1.50

<レポ>

足許GCは週を通して1.000%~1.005%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年484~486回債、5年180~185回債、10年361~372、379~383回債、20年194~196回債、30年87~90回債などに引合いが見られた。

【オープン市場】

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.1 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は1兆2,275億円で、週間償還額の1兆1,235億円を上回った。発行残高は、先週末時点の25兆2,906億円から、7月9日時点で25兆7,143億円へと増加した。発行市場では、石油製品・ゴム製品・建設業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台から1.1%台、3ヶ月物で1.1%程度から1.2%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆7,655億円となっている。発行市場は、週末に連休を控えていることから、5・10日の前倒し発行によって活況なマーケットになると予想する。発行レートは、次回の利上げ時期を見極めようとする動きから、引き続き水準を探る展開となるだろう。

<TDB>

8日の6M (第1392回債) の入札は、最高落札利回り1.0217% (前回債0.9901%)、平均落札利回り1.0118% (前回債0.9821%) となった。10日の3M (第1393回債) の入札は、最高落札利回り0.9544% (前回債0.9306%)、平均落札利回り0.9393% (前回債0.9133%) となった。来週の入札は16日に1Y、17日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。